



調査研究、研修、要請・陳情活動報告書

平成31年 2月 4日

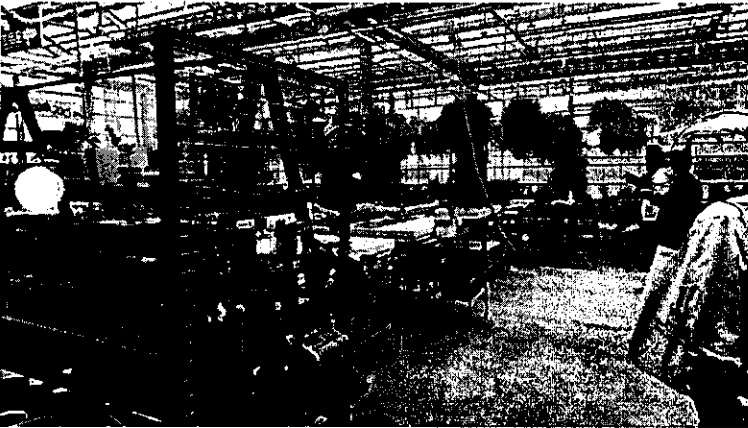
志摩市議会議長 様	報告者	会派名 大秀会 議員氏名 大口 秀和	
年月日	平成31年1月16日(水)		
時間	午前10時00分 ~ 午後1時00分		
参加者氏名	大口 秀和 (他会派と合同研修)		
用務先	住所	沖縄県名護市名護 4607-1	
	名称	なごアグリパーク	
目的・内容	<p>目的：なごアグリパークの視察と6次産業化への取り組み 内容：6次産業化推進施設として「なごアグリパーク」を整備し、全国でも先進的に事業への取り組みを行っていることから、その取り組みへの経緯や事業実施状況、現在の課題と将来展望等をレクチャー及び施設見学等を通じて学ぶ。</p>		
成果・所感	<p>現地の農業の歴史とこれまでを聞き取る中、名護市ではサトウキビの作付けが多いが、市場でのキビの買取価格が低く、農家の収入増には厳しい状況がある。そのことから転作など多彩な農作物の作付で農家の収入増を図り、名護市の農業を支えるを目的として農産物6次産業化支援拠点施設整備事業として取り組んだのが「なごアグリパーク」である。今回はその名護市の取り組み方法とパークの経営を現地で学ばせていただいた。先に取り組みまでの経緯として、農家振興の課題がある中、沖縄振興特別推進交付金が平成24年に提示され、課題解決のためそれを活用しての農業の6次産業化の実現への取り組みであった。地元の事業への意見の聞き取りはもちろんであったが、何よりも地元で加工販売専門の2業者を本計画に参加させての6次産業化への理念作りと、市井で稼げる経営形態を作ったのが成功を引き寄せたものと思える。また担当された市職員の事業成功への情熱と業者を交えての緻密な経営戦略の組み立てが功を奏し、全国でも先進的な取り組みとなったのを実感した。本施設の事業成功には心から名護市の農業を支えるという情熱に加え、地元農業の正確な情報収集と現実的な目標設定、資金の担保、関わる人々の忌憚ない合議と和があり、成功をみたと考察される。</p>		

調査研究、研修、要請・陳情活動報告書

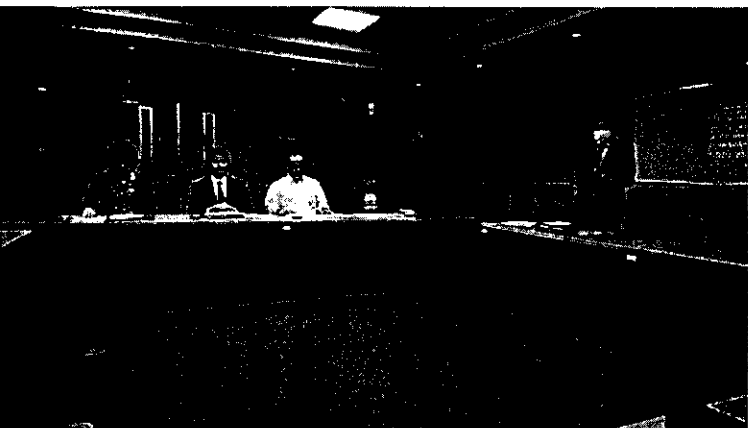
平成31年 2月 4日

志摩市議会議長 様	報告者	会派名 大秀会 議員氏名 大口 秀和	
年月日	平成31年1月17日(木)		
時間	午前9時00分 ~ 午前10時30分		
参加者氏名	大口 秀和 (他会派と合同研修)		
用務先	住所	沖縄県那覇市泉崎1丁目1番1号	
	名称	那覇市役所	
目的・内容	<p>目的：子どもの貧困緊急対策事業について</p> <p>内容：子どもの貧困緊急対策事業を実施するに至った経緯、子どもの貧困に関する支援事業の内容、居場所型学習支援事業運営状況、子どもの包括的自立促進支援事業の運営状況、子どもの貧困緊急対策事業実施における成果、今後の課題と事業の見通し等について聞き取りを行う。</p>		
成果・所感	<p>様々な要因で、子育て家庭における可処分所得が少なく、子どもたちへの食や教育に掛ける資金が少ないか皆無に近い中で起こってくるのが子どもの貧困である。そんな中、全国でも先駆的にこの子どもの貧困問題に取り組んでいる那覇市を訪れてその取り組みを学んだ。那覇市では那覇市こどもみらい子育て応援課を中心にいくつもの部、課、室が連携してこの問題に立ち向かっていた。聞き取りを行った職員の問題意識の深さ、市の情報の基、地域と連携した貧困家庭の把握、できる支援の形など、実にきめ細かい配慮のなか事業が進められていた。聞き取りの中では具体的な行動の例や、家庭の課題解決への踏み込みの在り方などが言葉豊かに語られ、その意気込みと使命感、そしてその行動力が聞き手である私にも重くのしかかってくるのを感じられた。子どもの貧困問題の解決にはこのように地域の子どもの本当に大切に思っている担当者と地域の方がキーマンであることがまず理解できた。そしてお話の中で、さらに細分化してたくさんの取り組み事例を聞かせていただき、2時間の聞き取りがあつという間に終わった。また私たちからは子どもの貧困に対しての那覇市における地域の協力の度合いや、子ども食堂の立ち上げ、それらへの那覇市の支援の実例などを聞かせていただいた。那覇市の「子どもの貧困」に対する取り組みは国の支援があるとはいえ、職員の慧眼が問題意識とその取り組みへの行動力つながっていることを実感した。大変参考になった。</p>		

沖縄県名護市 なごアグリパーク

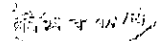


沖縄県那覇市役所




調査研究、研修、要請・陳情活動報告書

31.4.16




平成31年 4月16日

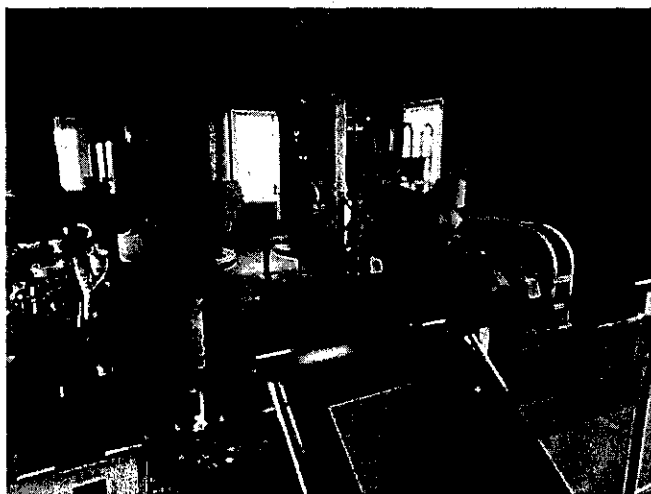
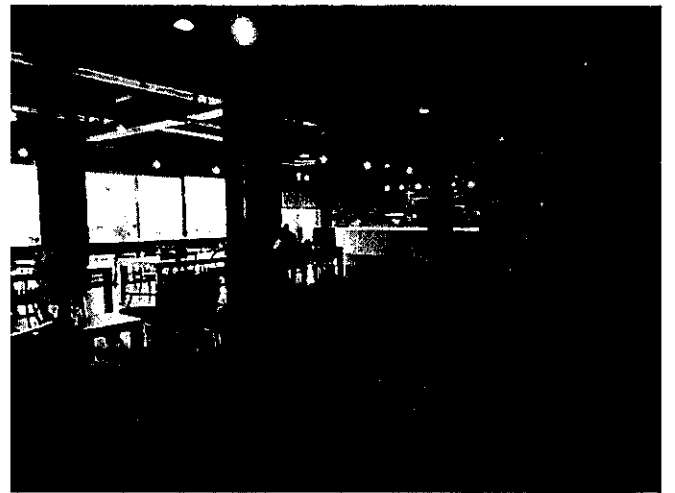
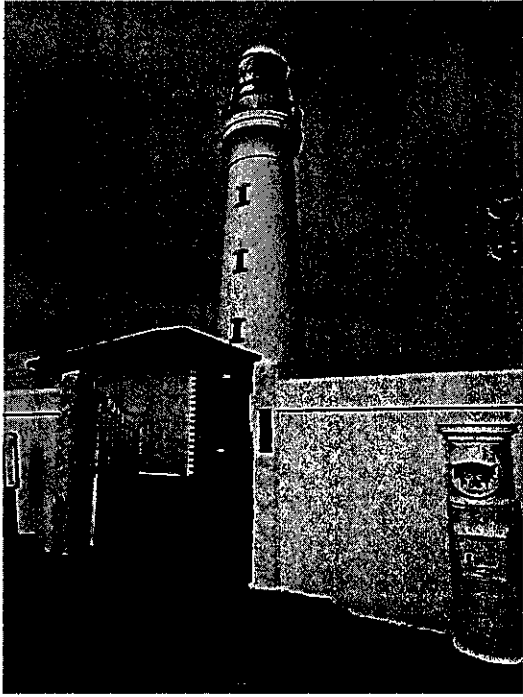
志摩市議会議長 様	報告者	会派名 大秀会 議員氏名 大口 秀和	
年月日	平成31年3月25日(月)		
時間	午後3時30分 ~ 午後4時00分		
参加者氏名	大口 秀和 (他会派と合同研修)		
用務先	住所	千葉県銚子市犬吠埼	
	名称	犬吠埼灯台	
目的・内容	<p>目的：志摩市の参観灯台の周辺整備の参考とするため、犬吠埼灯台を視察する。 内容：犬吠埼灯台周辺の整備状況の確認と、その周辺で事業を営む市民への灯台との関わりや灯台への思い等の聞き取りを行う。</p>		
成果・所感	<p>灯台サミットを提唱しその先駆けとして、昨年は志摩市が灯台サミットを開催しました。この事業により地域の文化発掘と観光振興をさらに進めたいと思い、今回犬吠埼灯台とその付近との関わりを調べてきました。受付で入場券を買い求めた所、即、私の上着に付いていた伊勢志摩のロゴを見つけ、受付の方がとても気さくに「この間灯台サミットを立ち上げてくれた志摩の方ですか」と話しかけられ、しばしそれぞれの灯台自慢と懇話が始まり、灯台サミットの先行きに光を見る思いでした。歴史ある灯台をつぶさに見、資料館の層の厚さに感心し、平日でも300人を超えるに入場者がいると聞き、周りを見ると入場門まで車道が整備され、またその前には今年オープンしたばかりの個人経営の体育館にも匹敵するほどの交流館があり、犬吠埼の四季の写真や地元製品の販売、文化の展示、カフェ、レストランなどが整備され、これは平日300人というのはさもありなんと感じ入ってしまいました。平成31年度は志摩市で灯台サミットは開催されませんが、次回開催に向けて、志摩市は早急に安乗埼灯台、大王埼灯台の周辺整備が急務と実感しました。</p>		

調査研究、研修、要請・陳情活動報告書

平成31年 4月16日

志摩市議会議長 様	報告者	会派名 大秀会 議員氏名 大口 秀和	
年 月 日	平成31年3月26日 (火)		
時 間	午前9時10分 ~ 午前10時50分		
参加者氏名	大口 秀和 (他会派と合同研修)		
用 務 先	住 所	千葉県安房郡鋸南町保田 724 番地	
	名 称	都市交流施設 道の駅 保田小学校	
目的・内容	<p>目的：学校の統廃合により廃校となった校舎の有効活用の参考とするため、都市交流施設・道の駅「保田小学校」を視察する。</p> <p>内容：鋸南町が整備し、指定管理者を選定し運営している都市交流施設・道の駅「保田小学校」の計画から完成までの経緯と、完成後の指定管理者選定と指定管理者の集客における戦略等を座学により聞き取りし、その後施設見学を行う。</p>		
成果・所感	<p>我が志摩市でも有効活用が期待される廃校や施設の数々、そんな中、今回は全国からもまた海外からも視察者が絶えないという千葉県の道の駅「保田小学校」で施設の有効利用の在り方を学んできました。学校統廃合で跡地利用が課題となっていた鋸南町でもこの学校の再利用が議論され、スクラップ&ビルドの方が安価であったにも関わらず、古い校舎を活かしての道の駅への転用でした。まず驚いたのは古い校舎の利用というにも関わらず非常に斬新な改築の在り方でした。またとても綺麗に整備され、住民との関わりを原点に運営が行われていました。この転用には議会でもかなりの議論があったと聞きましたが、そんな欠片も見えないほどに実に沢山のお客様でにぎわっていました。故郷に誇りを、地域に愛着を、そして地域交流の場としてのコンセプトが随所に活かされていて、実に快適な空間でした。その細部を語り掛けるととてもとても長い説明になりますが、成功の秘訣は鋸南町の町長のリーダーシップとそれに答えた専門集団の一体となった運営が一番大きいと感じられました。ちなみに町長は毎日時間があれば訪れているとのことでした。</p>		

千葉県銚子市 犬吠埼灯台



千葉県鋸南町 都市交流施設 道の駅 保田小学校

